

営農情報(令和6年5月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

■温州みかん

防除等の適期を逃さないよう栽培管理作業を計画しましょう。

◇樹の管理

- ・花器と新梢を充実させるため、チツソ主体(尿素)に6月まで農薬散布時に混用し葉面散布する。
- ・果実体質の強化対策として、一次生理落果期からカルシウム剤(カルタス)の散布を開始する。(カルタスはハーベストオイルとの混用を避けること。)

◇隔年交互結実栽培への移行

毎年の収量を平準化するには、結果樹面積の半分を交互結実樹に移行することが有効です。そのためには、結実させないように下記の摘果剤を利用して果実を落とし、残った果実は7月末までに手直して全摘果をする。

- ・摘果剤「ターム水溶剤」使用基準

500～1000倍を一次生理落果期(満開後10～20日)に立木全面散布
(効果を高めるため暖い日を選ぶ)

■かき

◇摘蕾

幼果期までの成長は貯蔵養分によってまかなわれるため、早い時点で養分の浪費を防ぐことが重要です。開花15～5日前が適期ですが、開花後でも効果はあるので、可能な限り行う。

1新梢に1蕾残しが基準ですが、40cm以上の新梢は2蕾残し、結果母枝基部の弱い新梢は、すべて摘蕾して翌年の母枝として利用する。

■キウイフルーツ

◇摘蕾・受粉

摘蕾は、養分競合を防ぎ、果実の初期肥大を促進し大玉生産につながる作業です。正常な蕾を残し、同時に側花蕾も除去します。1㎡あたり30～40花蕾を目安に残す。中長果枝で3～4花蕾、短花枝で1～2花蕾を残すようにする。

また、受精不良果は、小玉になるので適期に受粉する。

【5月の病害虫防除】

かんきつ類

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
開花期	訪花害虫	モスピラン(顆水)又は エクシレルSE	4000倍 5000倍	14日 前日	3回以内 〃
落弁期	灰色かび病 そうか病	フロンサイドSC又は ストロビー(ド)	2000倍 〃	30日 14日	1回 3回以内
5月下旬	カイガラムシ類幼虫	モベント(フ)又は アプロード(水)	2000倍 1000倍	7日 14日	3回以内 〃
	黒点病 そうか病 (スダチ除く)	デラン(フ)又は ナティーボ(フ)	1000倍 1500倍	30日 前日	3回以内 〃
	※かいよう病	ICボルドー66D	50倍	—	—

- ・灰色かび病は、落弁期に降雨が多いと多発する恐れがあるので必ず防除する。
- ・カイガラムシは発生予察情報に基づき適期散布する。
- ・モベント(フ)は、ミカンサビダニ、アザミウマ類、アブラムシ類、ミカンハダニ(密度抑制)にも有効。
- ・サンホーゼカイガラムシ防除は6月初旬に散布する。
- ・黒点病薬剤には、アビオン-Eを加用する。

※すだち等のかいよう病防除時は、ICボルドーにアプロードまたはスタークルを混用できる。

かき

開花期	炭疽病、うどんこ病	ベルコート(水)	1000倍	14日	3回以内
-----	-----------	----------	-------	-----	------

う め

5月上旬	黒星病、すす斑病	ファンタジスタ(顆)又はスコア(顆)	3000倍 〃	前日 〃	2回以内 3回 〃
5月下旬	ウメシロカイガラムシ	モスピラン(顆水)又はコルト(顆水)	2000倍 〃	前日 〃	3回以内 〃

キウイフルーツ

5月下旬	クワシロカイガラムシ幼虫	アプロード(水)	1000倍	前日	2回以内
	果実軟腐症	ロブラール(水)	1000倍	前日	4回 〃

★カメムシ発生注意

徳島県病害虫防除所が発表した、令和6年3月11日付け令和5年度技術情報によると、2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査において、越冬成虫数が平年及び前年に比べて多く確認されたようです。

また、日本気象協会発表の2024年春のスギ・ヒノキの花粉量については四国では例年並みだが、前年比では50～60%と少ない状態です。

越冬数が多いことと、スギやヒノキの球果が前年より少ないことから、昨年に増殖したカメムシが早くから被害を出す恐れがあります。

果樹全般、特にウメ、モモ、ナシについてはご注意ください。

■水 稲

◇田植え前後の管理

- ・病害虫防除(箱処理剤の施用)

田植7日前から当日までにビルダーリディア箱粒剤50g/箱 を施用する。

- ・除草剤の散布

水稻栽培暦に記載された除草剤を散布適期に散布する。除草剤は田面が露出して乾燥してしまうと効果を失うため、散布後50日程度は、田面が乾かないように水管理に注意する。

- ・ジャンボタニシの対策

ジャンボタニシは、田植え2～3週間後までに柔らかい葉が被害を受ける。その後は葉が硬くなり、深刻な被害は受けない。農薬による防除は、この時期にあわせて散布する。

■ナ ス

◇定植後の管理

- ・定植後は、すぐに仮支柱をたてて固定する。
- ・定植までの育苗期後半にアブラムシ、アザミウマ、ハダニ類の防除のため、モベント(フ)500倍を1株あたり50mlかん注する。
- ・定植後はかん水を兼ねて液肥を500倍以上に薄めて施用すると活着がよい。
- ・活着後のかん水は、やや抑え気味に行くことで根張りを良くする。
- ・第1花はトマトーン50倍液で処理し、確実に着花させる。
- ・成りぐせがつくまでは、花にトマトーン処理を行う。(目安としては6月末ごろまで)

■オクラ

◇播種前後の管理

- ・播種の目安は、最低地温が15℃になった頃。(マルチ栽培では、4月15日以降)
- ・種皮が硬く、吸水に時間がかかるため、播種前日より水に浸しておくとうえが揃いやすい。
- ・株間は20cm程度とし、1穴に4～5粒 播種する。
- ・土が乾燥していると発芽不良をおこすので、播種後も十分なかん水を行う。
- ・播種後、パオパオ等の不織布をかけてやると、保温や保湿の効果があり、生育が促進される。

<お問い合わせ先>

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA営農振興課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768